

PLATIA

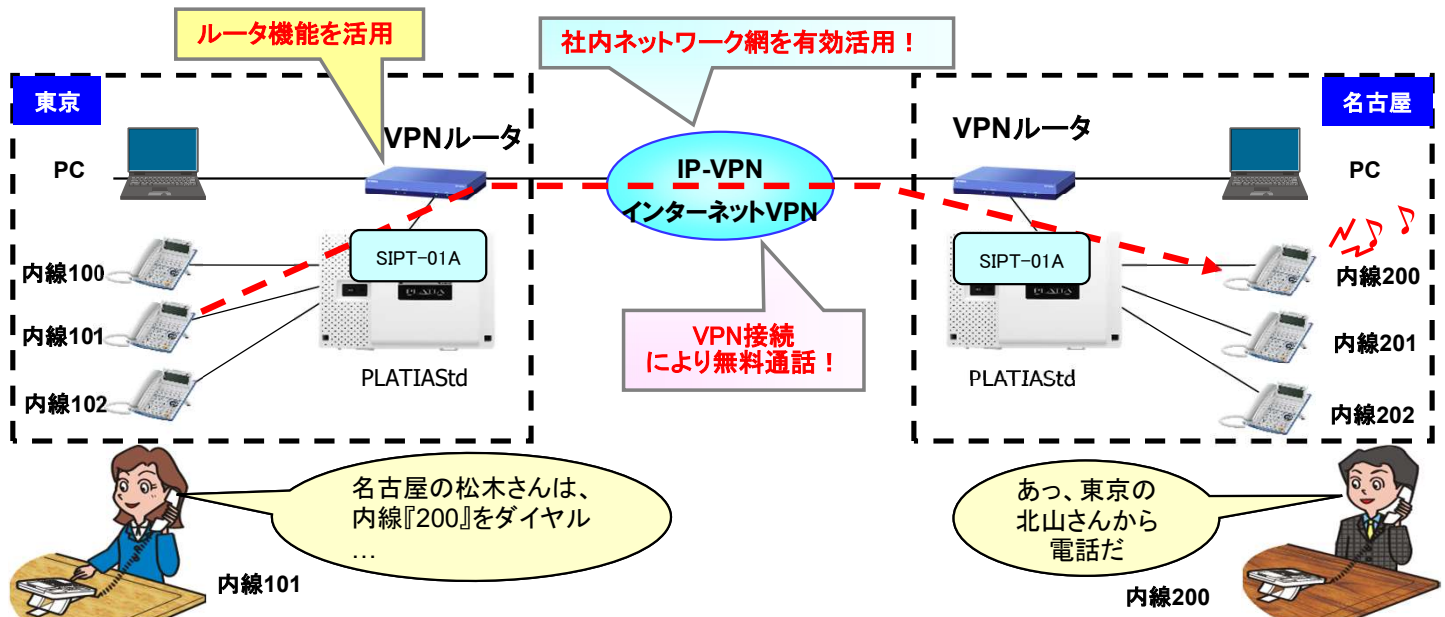
SIP専用線のご提案

1. SIP専用線とは？

PLATIA主装置同士をLAN (IP-VPNやインターネットVPN) で接続することにより、離れた拠点間でも内線番号で呼び出すことが可能な機能です。

※SIP専用線接続における通話は、
電話回線(アナログ、INS、ひかり電話、050IP電話サービス、専用線等)は利用しません。

<SIP専用線接続ご利用イメージ (閉番号)>



例) 東京の内線101から名古屋の内線200番への発信方法 ⇒ **内線番号『200』と押すだけ!**
他拠点の内線を、あたかも自拠点の内線のように、相手先内線番号のみで呼び出せます。

2. SIP専用線導入のメリット

- 他拠点の相手を内線番号で呼べます ⇒ **簡単操作**
- 拠点間は無料通話 ⇒ **通話料金削減**
- 各種特番操作により他拠点の主装置の機能を利用できます
(グループ呼出、保留転送、外線転送、放送呼出、メールアクセス等)

3. こんなお客様にご提案

- 拠点間の通話が多いお客様 (通信費のコスト削減)
「拠点間でのやりとり」や「本社にかかってきた電話を離れた支店へ転送」が可能!
- 既にVPN環境を構築されているお客様
VPN環境を有効活用することで、よりスムーズで密なコミュニケーション環境を構築!
- IP自動交換機能、専用線等をお使いのお客様【サクサ機種限定:HM・UT・GT・LT】
別途料金を発生させずに、拠点間の通話が可能

3. SIP専用線(閉番号)ご利用条件

- **PLATIA主装置同士のみ**で利用できます。
※PLATIAと他主装置(HM/UT/GT/LT等)間では利用できません。
- オプションユニット(**SIPT-01A**)が**必要**です。
- 拠点間での**内線番号の重複は不可**です。
※東京は100番台、名古屋は200番台などと内線番号を分ける必要があります

4. ご利用可能な機能

- ①他拠点の電話機を**内線個別呼び出し**する。
操作:(内線番号)
- ②他拠点の電話機を**グループ呼び出し**する。
操作:(専用線ボタン+特番)
- ③他拠点の**構内放送から呼び出し**をする。
操作:(専用線ボタン+特番)
- ④他拠点の**外線を捕捉して発信**する。
操作:(専用線ボタン+0+電話番号)
- ⑤外線通話を他拠点へ**保留転送**する。※①/②
操作:(保留→転送先内線番号→相手応答後フラッシュボタン)
- ⑥外線着信を他拠点に**自動転送**する。※①/②
※転送開始ボタンが必要となります。
- ⑦他拠点の**内線と会議通話**をする
- ⑧他拠点の**メールボックスにアクセス**する。

※①SIP専用線接続を利用して転送された通話を、さらに転送先でシステム内口頭転送をする場合、「専用線ボタン」が必要となります。

※②ともに転送先に発信元電話番号を表示することができます。(但し着信履歴には残りません)

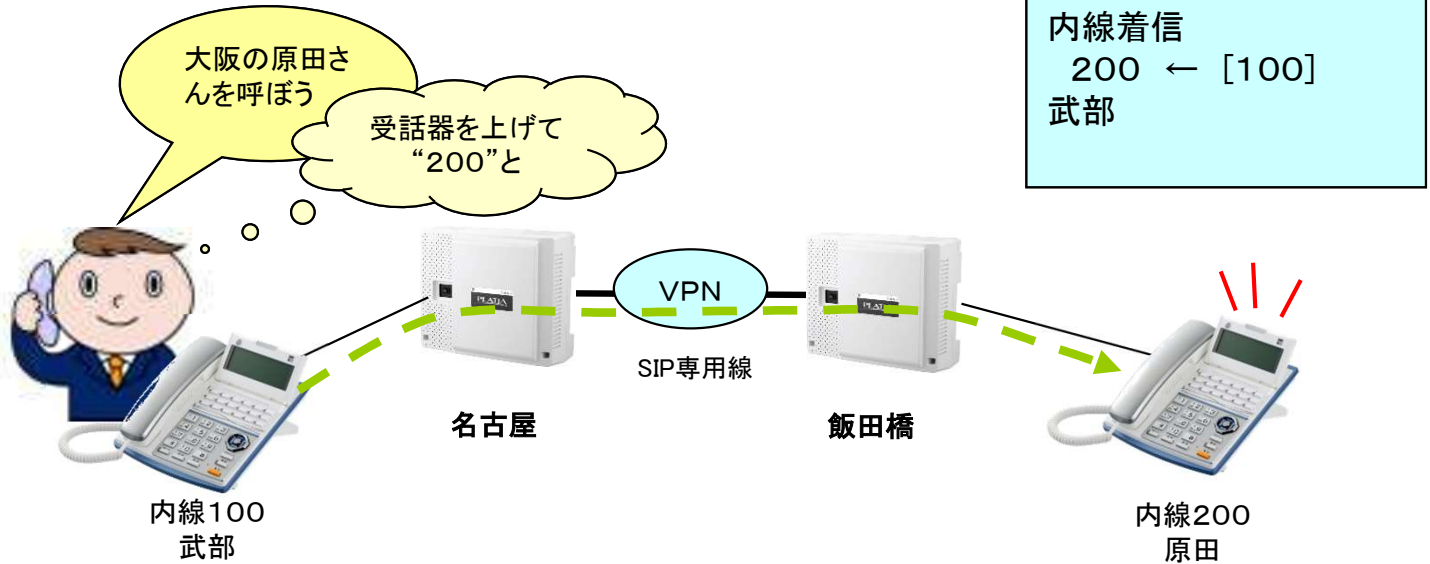
5. ご利用にあたっての注意事項

- SIP専用線接続による**同時通話数**は、
最大16ch(PLATIA Std)、32ch (PLATIA Pro)です。
※ブロードバンド回線は光回線をおすすめいたします(※各拠点SIP専用線の推奨は4ch)
- VPNルータが**必要**になります。(YAMAHAのRTX810、NVR500等)
- 閉番号方式では、拠点間での**内線番号の重複はできません**。
※東京は100番台、名古屋は200番台などと内線番号を分ける必要があります

①他拠点の電話機を内線個別呼び出し

【操作】

- ①受話器を上げる
- ②相手先内線番号を押す



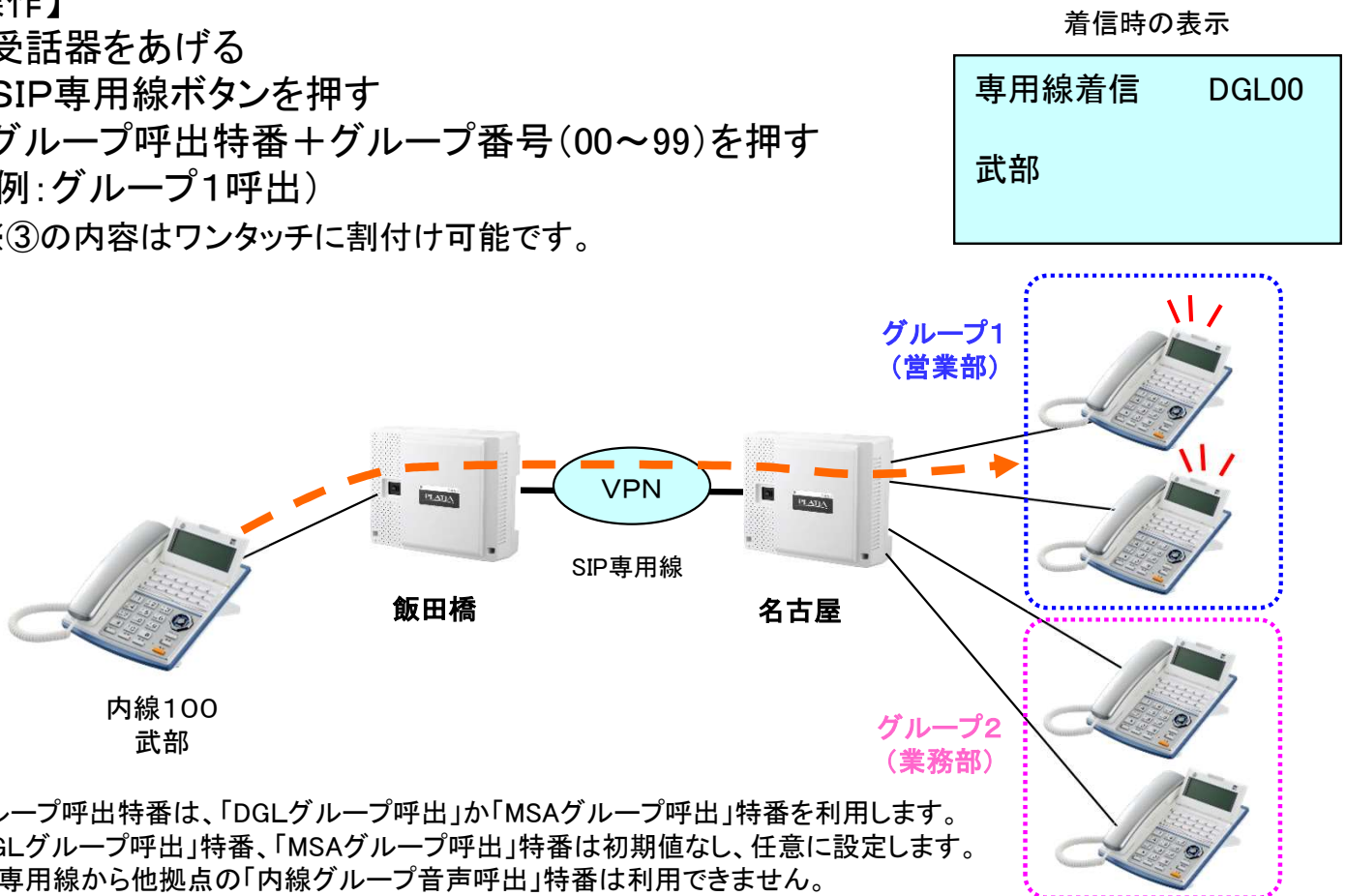
●他拠点の内線に着信時に名前を表示させるには、発信側内線に内線名前の登録が必要です。

②他拠点の電話機をグループ呼び出し

【操作】

- ①受話器をあげる
- ②SIP専用線ボタンを押す
- ③グループ呼出特番+グループ番号(00~99)を押す
(例:グループ1呼出)

※③の内容はワンタッチに割付け可能です。

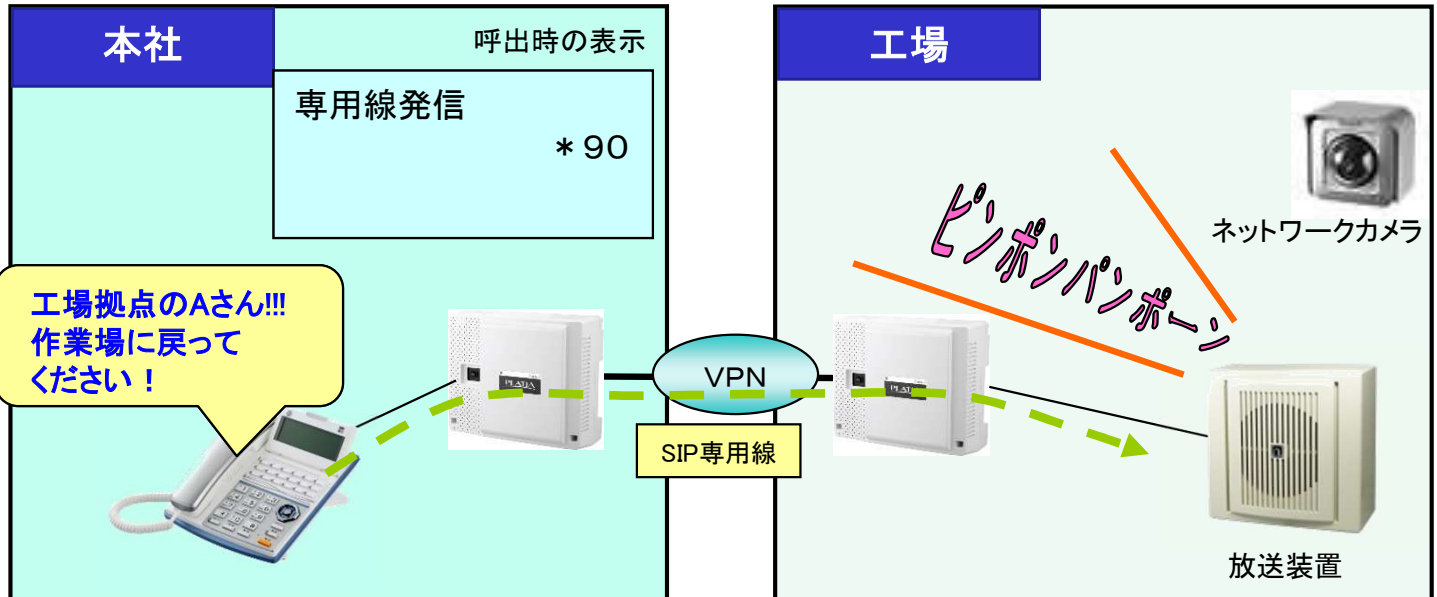


- グループ呼出特番は、「DGLグループ呼出」か「MSAグループ呼出」特番を利用します。
- 「DGLグループ呼出」特番、「MSAグループ呼出」特番は初期値なし、任意に設定します。
- SIP専用線から他拠点の「内線グループ音声呼出」特番は利用できません。

③他拠点の構内放送から呼び出し

【操作】

- ①受話器を上げる
- ②専用線ボタンを押す
- ③放送特番(初期: *90)を押す ※放送特番はワンタッチ割付可能

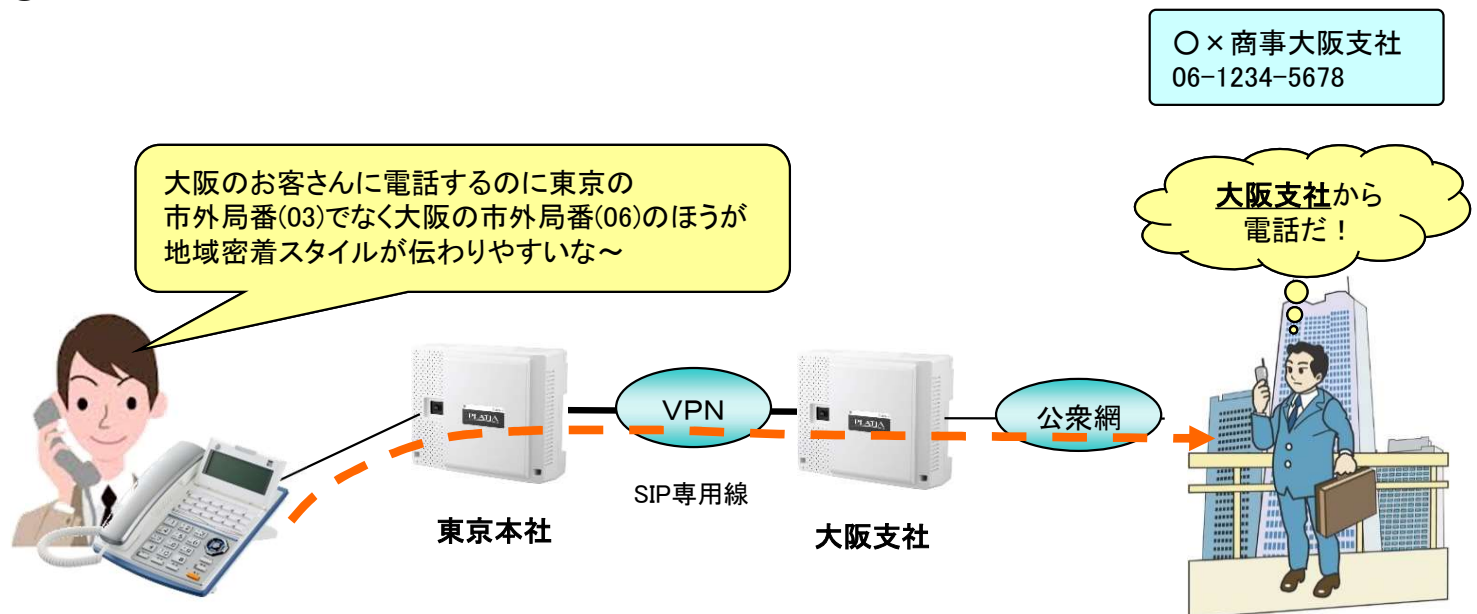


●放送特番は、外部スピーカ呼出特番「*9」+外部スピーカ番号「1~6、0(全スピーカ)」で構成されます。

④他拠点の外線を捕捉して発信

【操作】

- ①受話器を上げる
- ②専用線ボタンを押す
- ③「0」+「相手先番号」を押す (「0」は自動選局特番です)

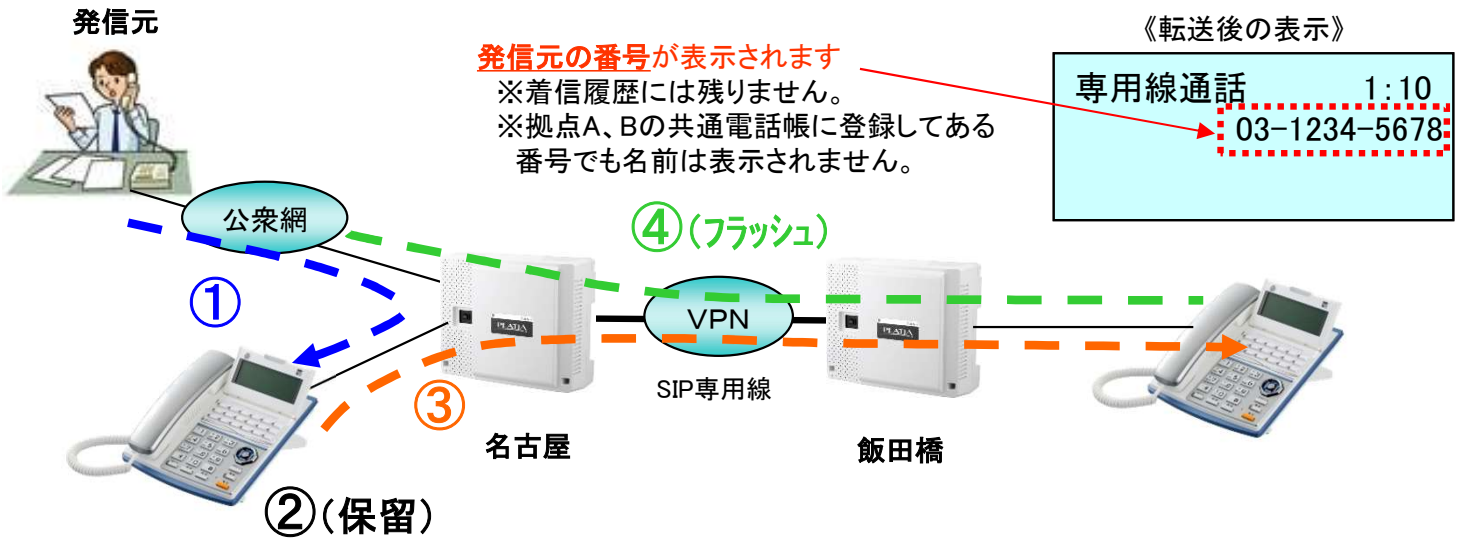


●他拠点の任意の回線(方路)を捕捉したい場合は、「方路捕捉特番」を押します。

⑤外線通話を他拠点(他拠点)へ保留転送

【操作】

- ①外線着信に応答
 - ②「保留」ボタンを押す
 - ③転送先番号(他拠点の内線番号)を押す ……転送先内線が呼び出されます
 - ④転送先が応答したら、「フラッシュ」を押す …… 保留呼が転送されます
- ※「フラッシュ」を押す代わりに、オンフックでも転送可能です (オンフック転送の工事設定必要)



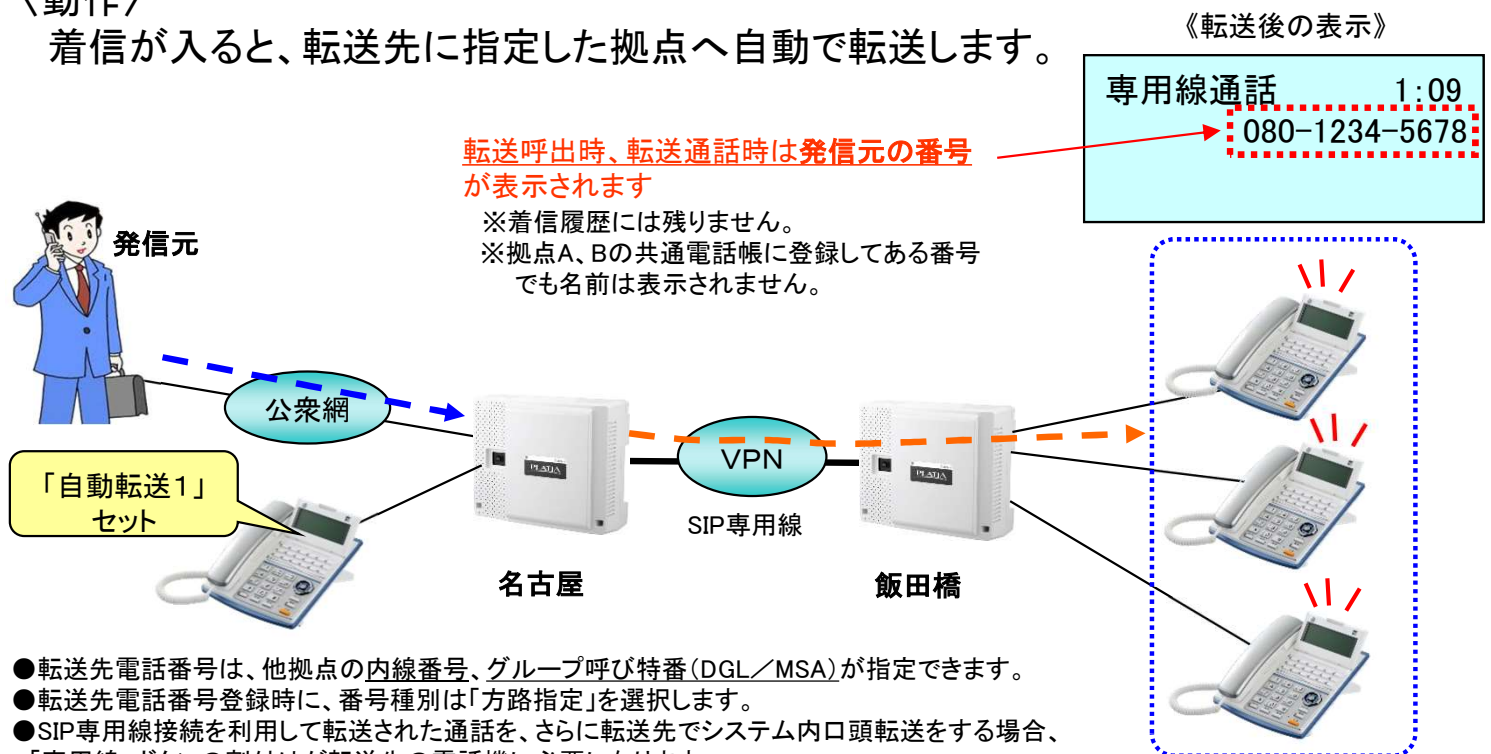
⑥外線着信を他拠点に自動転送

【操作】

- ①「外線転送」ボタンを押す …… 転送セット

〈動作〉

着信が入ると、転送先に指定した拠点へ自動で転送します。



- 転送先電話番号は、他拠点の内線番号、グループ呼び特番(DGL/MSA)が指定できます。
- 転送先電話番号登録時に、番号種別は「方路指定」を選択します。
- SIP専用線接続を利用して転送された通話を、さらに転送先でシステム内口頭転送をする場合、「専用線」ボタンの割付けが転送先の電話機に必要になります。

⑦会議通話

【操作】

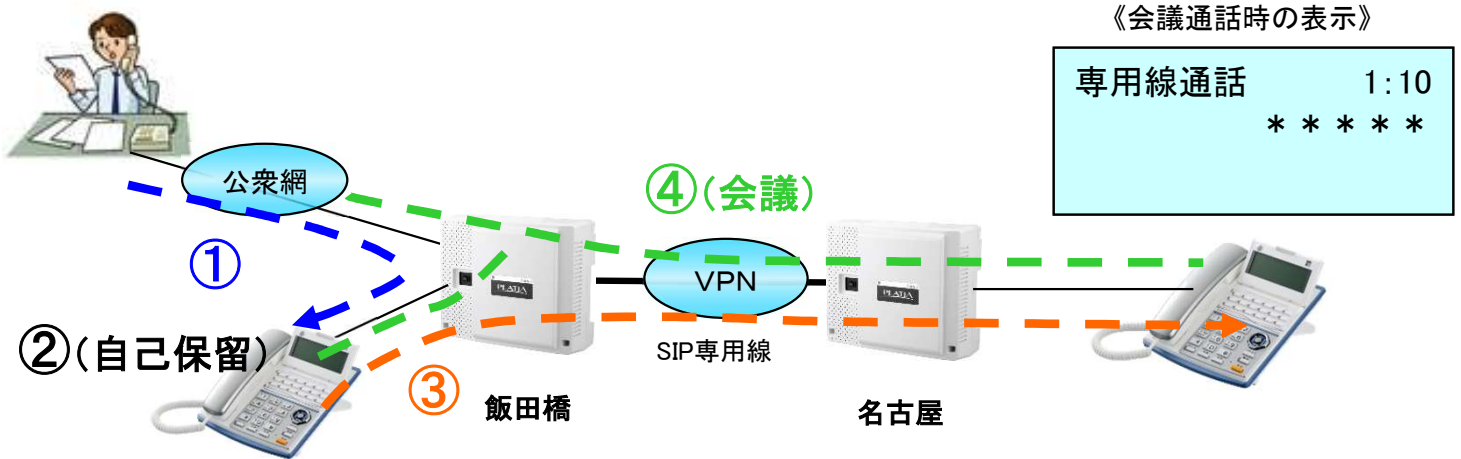
①外線着信に应答する

②「自己保留」ボタンを押す

※通常の「保留」ボタンではNG。事前に「自己保留」ボタンの登録が必要(初期割付ありオート18もしくはオート30)

③通話に参加させたい他拠点の「内線番号」を押す

④相手が应答したら、「会議」ボタンを押す … 3者会議の状態になります



- 会議通話は、内線／外線合わせて最大4者まで参加できます。
- 会議通話中の内線が電話を切ると、他の内線の参加者がいる場合は通話が継続されます。他の参加者が外線／専用線の場合、全ての通話が終了します。
- 他の参加者が外線／専用線の場合に自分だけが抜けるには、「フラッシュ」を押します。

⑧他拠点のメールボックスにアクセス

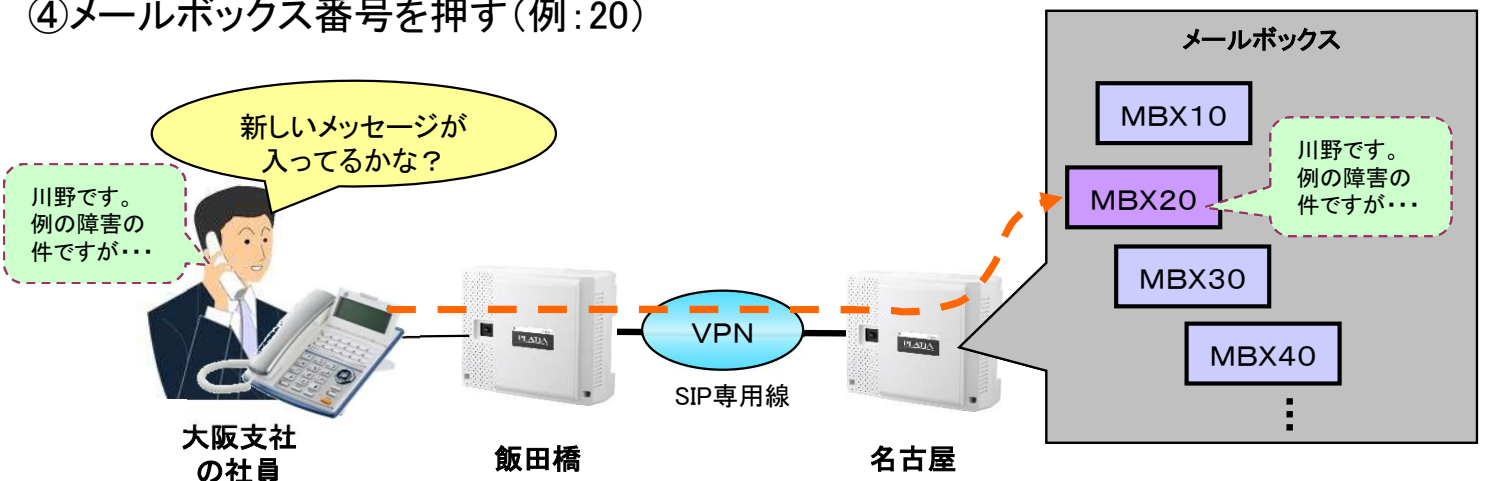
【操作】

①SIP専用線ボタンを押す

②メールアクセス特番(初期:91)を押す

③「#」を押す

④メールボックス番号を押す(例:20)



利用例) 大阪支社の社員が、出張先の本社から自分のメールボックスのメッセージを聴取

- 他拠点のメールボックスに接続した後は、通常のメールボックス操作と同じです。
- 上記③項で、「*」を押せば、該当のメールボックスにメッセージを吹き込むことができます。

【PLATIA】

- ①・PLATIA Std } 各種装置
- ・PLATIA Pro }
- ・PLATIA Ult }

②SIPT-01A・・・システム間接続用ユニット

⇒1枚で最大で16chまで対応

※各拠点ごとに各1ずつ

※ch数設定については別紙参照

③1BRI-01A/2CO-01A/IPHO-01A等局線ユニット

【参考目安】

I :計4拠点(自拠点含む),各拠点通話数が2chまでは概ね可能

II :std提案時において【416Pack-01A】利用の場合は
使用ch数超過の可能性が高くなるのでご注意ください。

【ルータ】

①SEiRiOS

※各拠点ごとに各1ずつ

【固定IP別途必要】

①VPN

【参考】ワンタッチボタン割付イメージ

内線:111番(東京:鈴木さんのワンタッチイメージ)

内線222番 (大阪:田中さん)	内線333番 (横浜:佐藤さん)	内線444番 (福岡:山本さん)	内線555番 (札幌:渡辺さん)	会議	メールBOX111
MSAグループ② 呼出【大阪】	MSAグループ③ 呼出【横浜】	自己保留	外線転送①	構内放送呼出 【福岡】	構内放送呼出 【札幌】
外線① (IPHO)	外線② (IPHO)	外線③ (IPHO)	外線④ (IPHO)	外線⑤ SIP専用線①	外線⑥ SIP専用線②

大阪:222番(大阪:田中さんのワンタッチイメージ)

内線222番 (東京:鈴木さん)	内線333番 (横浜:佐藤さん)	内線444番 (福岡:山本さん)	内線555番 (札幌:渡辺さん)	会議	メールBOX111
MSAグループ① 呼出【東京】	MSAグループ③ 呼出【横浜】	自己保留	外線転送①	構内放送呼出 【福岡】	構内放送呼出 【札幌】
外線① (IPHO)	外線② (IPHO)	外線③ (IPHO)	外線④ (IPHO)	外線⑤ SIP専用線①	外線⑥ SIP専用線②

主装置タイプ別 SIP専用線最大利用CH数

主装置 タイプ	SIPT-01A 使用枚数	BRGI-01A 使用枚数	最大利用可能 CH数
Std	1	実装不可	16
Pro	1	0	16
Pro	1	1	32
Ult (基本架)	1	0	16
Ult (基本架)	1	1	32
Ult (基本架)	1	2	48
Ult (基本架)	1	3	64
Ult 基本+増設架	1	4	80
Ult 基本+増設架	1	5	96
Ult 基本+増設架	1	6	112
Ult 基本+増設架	1	7	127

※他のIPパッケージも収容する場合は
 最大ch数が減ります。
 (詳細は、弊社営業担当へご確認下さい。)

全3拠点の設定例				拠点別使用可能ch設定例 着信側			使用 ch数計
	SIPT- 01A 使用枚数	BRGI- 01A 使用枚数	利用可能 ch数	A	B	C	
A拠点	1	0	16	/	5	4	9
B拠点	1	0	16	5	/	4	9
C拠点	1	0	16	4	4	/	8

全4拠点の場合				拠点別使用可能ch設定例 着信側				使用 ch数計
	SIPT- 01A 使用枚数	BRGI- 01A 使用枚数	利用可能 ch数	A	B	C	D	
A拠点	1	0	16	/	5	5	4	14
B拠点	1	0	16	5	/	2	4	11
C拠点	1	0	16	5	2	/	4	11
D拠点	1	0	16	4	4	4	/	12

全5拠点の場合				拠点別使用可能ch設定例 着信側					使用 ch数計
	SIPT- 01A 使用枚数	BRGI- 01A 使用枚数	利用可能 ch数	A	B	C	D	E	
A拠点	1	1	32	/	5	5	5	4	19
B拠点	1	0	16	5	/	2	3	4	14
C拠点	1	0	16	5	2	/	2	3	12
D拠点	1	0	16	5	3	2	/	4	14
E拠点	1	0	16	4	4	3	4	/	15

★SIPT-01Aの設定例・補足事項

各拠点に対して自拠点の有するSIPch数内にて事前に
使用chの設定が必要。

(自拠点にて有するSIPch数内での先着順フリーch使用は不可。

⇒発信拠点ごとに使用ch数の要事前設定)